日本人間関係学会ニュース 第 95 号　発行日：2019.3.8

News　No.95　Japan Association of Human Relations March 8, 2019

発　行：日本人間関係学会 広報委員会　E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室

事務局：〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂 1510 番地 埼玉学園大学人間学部心理学科 杉山雅宏研究室

FAX:04-7122-1560　E-mail:jahrjimukyoku@gmail.com

［内容］　☆大会委員長挨拶　☆全国大会特集　☆地区会動向紹介　☆人間関係学探訪　☆事務局だより

《大会委員長挨拶》

第 26 回全国大会を振り返って

大会委員長　小島 良一
（東北医科薬科大学教授）

昨年 12 月の全国学会の際は、会員の皆様には大変お世話になりました。学会開催時の過去の資料を快く提供してくださった関西福祉大学の谷川和昭先生をはじめ、寒い仙台での開催にもかかわらず参加してくださった多くの会員の皆様に対し、この場をお借りして御礼申し上げます。皆様にご満足いただける学会になったかどうか開催校の責任者として不安なところはありますが、何とか恙無く全うできたことを安堵しております。今後の学会開催のためにもし出来ることがあれば、微力ではありますが協力を惜しまない所存です。

今回の目的の一つは、学会開催前のご案内の中で予告した通り、仙台での活動状況を会員の皆様に知っていただくことでした。そのような理由から今回は仙台在住のコーチングの専門家である阿部侑生先生に、「オランダ流コーチングと人間関係づくり」というタイトルで、ユーモアとウィットに満ちた大変刺激的な講演をしていただきました。聴衆を飽きさせない、本当に見事なお話でした。そして阿部先生と同じ Dream Field の鈴木満先生にも講師の一人として、ワークショップを担当していただきました。

今回の仙台での学会開催の前にはいろいろな問題が起こり、学会事務局も全国大会よりもそちらへの対応に追われるという、例年とは違った状況下での開催になってしまいました。そういう経緯から、今回は山本克司先生に基調講演の中で今後の学会の方向性を提示していただきました。仙台での学会が、山本新理事長の提案通り、学会の健全化と民主化の第一歩になることを期待しております。

第 26 回大会は開催が仙台だったことと時期が師走だったことも重なって、昨年の関東での学会に比べると参加人数が心なしか少ないように感じましたが、参加してくださった会員の皆様のご協力でなんとか無事に閉会できましたことを本当に嬉しく思います。本当にありがとうございました。第 27 回全国大会での皆様との再会を楽しみにしております。

全国大会特集・メモリアルフォト　2018.12.15-16.

平成最後の日本人間関係学会として第２６回全国大会が 2018 年 12 月 15 日と 16 日の両日、東北医科薬科大学を舞台として開催されました。大会テーマは「人間関係づくり―成果から成熟へ―」で、専門家によるチャーミングな講演、学会員のアクティブな研究発表と実践発表、そして意見交換や交流がありました。

ここではそんな雰囲気を少しでも感じていただけるようメモリアルフォトとして送り届けます。

阿部侑生先生による「オランダ流コーチングと人間関係づくり」の講演①

「オランダ流コーチング」の手解きを受ける大会長の小島良一先生

阿部侑生先生による「オランダ流コーチングと人間関係づくり」の講演②

森千佐子先生による「人間関係づくりに活かすアイスブレイクとホスピタリティ」のワークショップ

阿部侑生先生による「オランダ流コーチングと人間関係づくり」の講演③

杉山雅宏先生による「カウンセリング手法を用いた仲間づくり体験」のワークショップ

鈴木満先生による「こころをほぐすコーチング」のワークショップの様子

大会2日目、中央棟2階・3階で開催された研究発表・実践発表の一場面

恒例となった関東地区会によるワークショップ、今回は「支援者としての困難と克服」がテーマ

最優秀発表賞授与式の様子で、阿部美佳会員が初受賞

山本克司理事長（右）、占部愼一常任理事らが会場内をリラックスさせる雰囲気づくり

大会長の小島良一に向けて感謝・感激・感動の万歳三唱!!!

26 回目の学会は、きらめき、まばゆいばかりの大会でした。まさに平成最後の大会に相応しく、人間にとって重要な、普遍的なものを多角的に見させてくれるような大会となりました。本学会の存在価値を改めて認識できるものとなったことに感謝を申し上げます。

なお、ご覧をいただいたのは一部の写真です。これらの写真を用いた動画（スライドショー）については公式 Facebook ページにアップされていますので是非ご鑑賞ください。

地区会研究会の動向紹介

日本人間関係学会には 2019 年 2 月現在、3 つの地区会（研究会）があります。広報委員会では、その動向紹介を、各地区の会長である杉山雅宏先生、杉本太平先生、早坂三郎先生に依頼して原稿を寄せていただきました。それぞれの地区会の現況や会の特色、想い出、メッセージなどを整理したのでご覧ください。

§1 日本人間関係学会東北地区会

会長　杉山雅宏

1. 発足年月日

2015 年 10 月 1 日

2. 構成人数

30 名

3. 開催実績

毎月 1 回

4. 地区会の特徴

東北地区会は、株式会社ドリームフィールド（コーチング研修会社）の全面的な支援を受け、活動を展開しております。定例研修会は毎月 1 回実施しています。講座内容は、ビジネスコーチング講座（鈴木満先生担当）とビジネス傾聴講座（杉山担当）となり、会員だけではなく一般公開の講座として実施しております。

また、特別研修として年間 2 回、コーチング研究講座に「人間関係士」資格取得に関するグループアプローチに関する講座（5 時間研修 2 日）を組み入れていただいております。

東北地区会は、会員種別でいえば「一般会員」が中心となっています。コーチングを学び、社会学級などの地域活動、地区センターにおける講座、青少年健全育成活動などの地域の実践家の皆さんが東北地区会を支えてくださっています。もう一つの特徴は、東北医科薬科大学の先生方、大学付属病院の医療職の皆さんの多くが会員となってくださっております。

5. 一番の思い出

これは昨年 12 月に全国大会を小島良一常任理事実行委員長のもと、東北医科薬科大学で開催できたことです。

6. 全国会員へのメッセージ

東北地区会の活動は地味ですが、コツコツと毎月交流を継続しています。勉強の後は懇親会、懇親会からの参加も OK！と柔軟な姿勢です。仙台にお立ち寄りの際は研修会に顔を出してみてください。

にぎわう研修の様子

§2 日本人間関係学会関東地区会

会長　杉本太平

1. 発足年月日

2011 年 4 月 1 日

2. 構成人数

30 名（会員登録人数）

3. 開催実績

年 6 回、通算 40 回（2019.1 月現在）

大会自主ワークショップ 5 回

4. 地区会の特徴

「関東地区会」では、人と人との間に愛や信頼が育まれるために、いかに自らが変わったらよいかを根本的なテーマとし、ロールプレイや心理劇法などを含めた理論のみならず実践的な研修を進めています。

アットホームな集合撮影

企業 OB・教育関係・相談関係・看護関係・地域で学習中の主婦など老若男女の幅広い参加者層があり、

毎回熱気を帯びて盛り上がっています。

リーダーと参加者参加者との境界は薄く、共に学びあっている学習集団です。

目指していることは、家庭教育（子育て）、学校、企業、地域社会などの様々な「場」において、人間関係を豊かに形成・育成できる人材の養成です。子育て支援や教育支援者、福祉支者、地域社会や企業におけるリーダーなどの「人間関係力」を高めるためのスキルトレーニングを「ヒューマンリレーション・スキルトレーニング（Human Relation Skills Training）＝HRST」として、様々な研修を企画・実践しています。

5. 一番の想い出

関東地区会の母体は顧問佐藤啓子（文教大学名誉教授）のもとで 22 年間の長きにわたって地域の方々と研修活動を続けた「文教大学心理劇研究会」でした。本地区会の設立時には、そこで学ばれた佐藤尋子（2014.年 5 月永眠）さんのご尽力が多大で、いつも明るくパワフルに本地区会を生み出す推進力となっておられました。

6. 全国会員へのメッセージ

「関東地区会」は研究職や対人支援職（保育・教育・臨床心理・医療・看護・介護など）などの専門職の方のみならず、一般企業や地域の方々とも「人間関係」を共に学びあうための開かれた研修の場です。「人間関係」に興味のある方は誰でも参加できます。また「人間関係士」の資格取得・更新のための学会認定を受けた地区会でもあります。ぜひ、ご活用ください。

§3 日本人間関係学会関西地区会

会長　早坂三郎

1. 発足経緯

2001 年頃から当時の本学会運営委員会の了承のもと全国各地への支部創設に着手し、2003 年 10 月に関西地区会発足式と第１回研究会を芦屋大学にて佐藤啓子元会長はじめ多くの学会執行部の方々にご参加頂いて産声を上げました。

2. 人数と構成

案内送信者数は本学会未入会者を含め約 75 名です。尚、関西地区会は関西地区在住及び今後近隣の各地区会発足までの間、中部地区・中国地区・四国地区・九州地区の本学会会員を以て構成し、加えて上記以外の本学会会員の研究会への参加並びに関西地区会活動に関心のある臨時会員の参加も歓迎して活動しています。

3. 開催状況

定期的に年間４回（原則として６月・９月・12 月・３月の各第 1 土曜日）開催し、研究発表と共に会務運営を協議し、以上の報告を行っています。尚、年会費は千円です。

4. 地区会の特徴

一人 45 分の研究発表と 15 分の質疑応答及びレジュメの作成を以て 1 件の発表とし、毎回 3 件の発表により研鑽を積んでいます。何より、毎回終了後の懇親会は、和やかで初参加の方でも直ぐに溶け込める雰囲気で、地区会の魅力の一つとなっています。

5. たくさんの想い出

発足の会は勿論のこと、震災直後の 2011 年 6 月に第 30 回記念シンポジウムを「東日本大震災への復興支援について」のテーマで、震災ボランティア活動報告などを含め京都ノートルダム女子大学で開催した事。また、第 40 回記念研究会を高松で宿泊にて開催し、2016 年 6 月には第 50 回記念講演会と研究会を三重県の北勢病院で宿泊研修を兼ねて開催した事と、熊本地震直後にも拘らず熊本から永野典詞会員が駆け付け発表してくれたこと。2018 年 12 月第 60 回記念講演会を共催の甲子園学院関係者及び地元西宮市の後援を得て近隣の方を含め約百人に及ぶ参加となった事。そして、本年 3 月 9 日の第 61 回研究会につながっていることに深い感慨を覚えます。

第60回記念講演会の様子

6. 全国会員へのメッセージ

学会 HP にも開催案内を掲示して頂き、出張や旅行の折に気軽に関西地区会の研究会と懇親会にご参加頂きたいと願っています。お待ちしています！

人間関係学探訪シリーズ⑪

日本人間関係学会は教育・医療・心理・福祉など研究者だけでの集まりでなく、人間関係に関心のある企業人、学生、市民など多種多様な会員が集まっています。そうした会員のお一人おひとりにスポットを当てて、Q&A 形式で、その実践やお人柄、人間関係への想いを語っていただき、人間関係学の探究に何らかの示唆を得ることが本シリーズの意図・ねらいです。シリーズの第 11 回では、看護学をご専門とされている藤川君江先生に語っていただきました。

藤川君江氏

群馬県吾妻郡生まれ。埼玉県の自然豊かな地域にある日本医療科学大学で精神看護学を担当。2 人の子育てを終え、現在、夫とは別居して仕事に専念。国際医療福祉大学大学院修了（医療福祉修士）、高崎健康福祉大学大学院博士後期課程修了（保健福祉学）。国保旭中央病院（泌尿器科・耳鼻咽喉科病棟）、 群馬大学病院（泌尿器科）、大内病院（精神科病棟） 、桐生大学、金城大学、日本医療科学大学（2017 年 4 月～）。博士（保健福祉学）。

谷川（広報委員会）：こんにちは、藤川君江先生。今日はよろしくお願いいたします。

藤川：こちらこそよろしくお願いします。

谷川：藤川先生と初めてお言葉を交わしたのは、1 年ほど前のことで、確か京都ノートルダム女子大学だったと思います。ご記憶にございますか…。

藤川：はい。理事会でお会いしました。

谷川：その時に、初めて名刺交換をしたのですね。では、藤川先生のご経歴から教えてください。

藤川：私は看護師として総合病院の外科系病棟や精神科単科病院で 20 年以上働いていました。その後看護専門学校を経て大学の教員として働いています。大学での専門領域は精神看護学です。研究は、男性看護師と一人暮らし男性高齢者が対象ですが、出会う人たちから今まで歩んできた人生を聞いていると私自身の考え方が変わるなど学ぶことが多くあります。

谷川：出会いがあればこその学びですね。では、ご趣味についてはいかがですか。

藤川：趣味と言える物がありません。老後を考えて趣味を見つけたいと思います。

谷川：看護教育を行うこと、看護研究を行うこと、そして、看護に関連した社会活動を行うこと、これらの実践の先を考えていくことも大切ですね。では、学会に入会してどのくらいになりますでしょうか。

藤川：５年です。
谷川：入会のきっかけは何だったのでしょう？
藤川：占部慎一先生に紹介して頂きました。
谷川：占部先生からのご紹介だったのですね。看護の先生に入っていただけて個人的には嬉しいです。5 年前といえば、広報委員会で三つ折りの入会申込書を作成していた頃で、懐かしいです。入会されて、良かったことは？
藤川：アットホームな印象で心地良い学会だと思っています。
谷川：最も印象に残っている大会は？
藤川：熊本で開催された大会です。共同研究者が九州看護福祉大学にいるので、大会のついでに会えました。
谷川：玉名市にある大学ですね。他の学会で私もお邪魔したことがあり、確かに同じ熊本県内にあります。大会発表のついでに懇意にしている方やお仲間と会えるのも、学会の醍醐味の 1 つですね。さて、今のお仕事についておうかがいますが、いかがでしょうか。やりがいですとか、学生へのサポートですとか…。
藤川：授業では学生一人ひとりを見ることは出来ませんが、臨地実習では一人ひとりの学生と関われるので、この子はこんな良いところがあるのだな…と気がつくことができます。「実習楽しかった」と言われると嬉しいです。しかし、今の学生は色々な意味で難しいです。どのように学生と関われば良いか悩むことが多いです。
谷川：机上では見られない、教室の外での学生の表情って何か違うものがありますね。学生への接し方は学生にもよりますね。
藤川：谷川先生は、学生指導で特に気をつけていることはどんなことですか？
谷川：パターナリズムの上から目線にならない、つまりパートナーシップのそれこそ人間対人間の対等な関係づくりを心がけています。学生指導の「指導」というのは、「指で導く」と書きますが、私が心得ているのは、「姿で導く」の姿導です。とは言いましても、これがなかなか…。
藤川：そうすれば良いですね。参考にさせて頂きます。
谷川：恐縮です。私は大学の教員になったばかりの頃、もう 15 年以上前になりますが、「もっとフレンドリーに接してほしい」と授業評価アンケートの自由回答に書かれてありました。そうか、学生が求めているのはこれか、と反省しました。
藤川：自分が元気でいないと良い人間関係はできないと思います。谷川先生の気分転換の方法があったら、教えてください。
谷川：過去の楽しかったこと、お世話になり支えてもらったことなど思い出したりしています。恩返しができればという、スイッチの切り替え、ですね。ところで、本学会には人間関係士という資格があり、人間関係力を打ち出しています。藤川先生は人間関係力について、どうお考えですか。
藤川：精神看護学は、健康な心の発達や自己理解・他者理解を深めてよりよい人間関係を作ることが重要だと考えています。人の心は見えませんが、見えない心を見て行かなければなりません。人と関わることで、関わった人が気持ちよく話ができることが人間関係では大切だと思います。
谷川：なるほど。見ようとしなければ見えませんし、見えたとしましても全部が見えているとは限りません。
藤川：看護師は女性多数の職場で、人間関係には苦労した経験があります。卒業生からも人間関係で仕事を辞めたいという相談が時々あります。卒業生の話を聞いてあげるだけで仕事が継続できるので、傾聴する姿勢が大切だと思います。
谷川：お仕事で最も負荷のかかるストレス源は、とくに対人関係ですね。いつでも戻ってきていいよっていう、帰る場所があることは卒業生にとって幸せなことですね。では、最後にもう 1 つだけ。人間関係、こうすれば良くなりますよという何か提言なり提案はございませんか。
藤川：人の話を最後まで聞くことです。そして、相手を尊重した態度を示すことで人間関係が良くなると思います。
谷川：「最後まで」という姿勢。人間関係への提言・提案として、しっかりと受け止めます。本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

（インタビュー：2018 年 12 月 14 日）

《事務だより》

《事務局だより》

会員動向 ＜2018 年 10 月 1 日～2019 年 2月 1 日現在＞

新入会員 １１名

正 会 員：藤田文子・堀越薫・北原佳代・植田高史・山本早千奈・森久徳・戸次佳子　７名

一般会員：小林美和子・逆井友子　２名

準 会 員：石原善実　１名

退会員　５名

総計　２２４ 名

内訳：正会員　１７３名・一般会員　２４名・準会員　２６名・賛助会員　１名

このところ、会員が少しずつですが増えております。特に山本理事長、藤川理事のご尽力によるものです。ありがとうございます。色々なことがあり、学会に残るものと学会を後にするものとがありました。新しい会員の皆さんは、どのような動機から入会されましたか？　私たちの仲間として心より歓迎の気持ちを表します。人は誰でも、良いところもあれば悪いところもあるものです。しかし、人間関係をよくしたいという想いを大切に、素敵な過去をたくさん創り出してゆこうではありませんか（事務局長）。

◇◇◇◇◇◇◇◇ ◇　◇　　**人的資源のデータベース化について**　　◇　◇ ◇◇◇◇◇◇◇

昨年 12 月の新体制を機に、会員の皆様のご活躍に資するため、学会の人的資源のデータベース化を進めています。受付は 3 月末までとなっています。目的をご理解いただきご協力をお願いします。

Ⅰ　学会の将来的な展望

学会員の人的資源を公開することにより、行政、マスメディア、教育機関、医療関係施設、福祉関係施設、企業、諸団体等と連携を図り、会員の活躍の場を拡げる。

- 各種講演の講師として活躍する
- マスメディアに解説者として加わる
- 教育委員会の有識者として活躍する
- 出版関係に周知せしめる
- 会員間の研究会を活性化する
- 新しい会員募集の際に情報提供できる
- 上記の機関・施設と効果的な連携が可能となり、研究・実践活動の機会が拡大する
- 日本人間関係学会が会員の後見機関として、活動の保証をすることができる
- 会員間の人的交流が円滑化する

Ⅱ　データベースによる情報公開に伴うリスクに対する配慮

- 基本的に研究・実践において会員各位の自己実現に必要な範囲において公開する
- 個人が不利益を被る危険性を伴う情報の公開は慎む
- 情報の公開は、現在、文部科学省が推進している大学の情報公開を基準として、各自が判断する
- 連携に伴い、連絡を必要とする場合には、職務上の連絡先を記載し、個人のアドレス、メール、携帯電話は原則として公開しない
- 学会として、情報公開を希望しない会員に情報公開を強制することはしない
- 情報公開に伴うリスクが発生した場合には、速やかに学会に報告し、学会が組織として対応する

（編集後記）

今号は仙台で開催された第26回全国大会の特集をメモリアルフォトの形でお届けすることにしました。また、関西、関東、東北の各地区会の動向紹介を一挙掲載しました。さらに人間関係学探訪もシリーズ第11回を迎えることとなり、今回は藤川君江会員のご協力をいただきました。取材後、次年度の全国学会大会担当をお引き受けされたことを知りました。次号では、藤川会員の巻頭言・大会委員長挨拶から開始です。（谷川和昭）